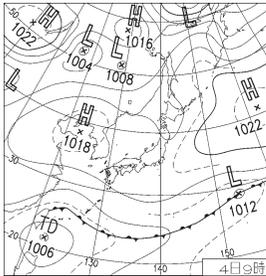


日々の天気図

— No. 101

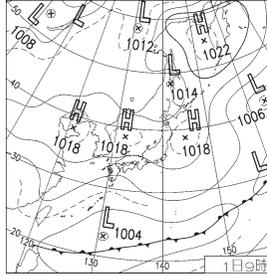
2010年6月

- 宮崎県都城や鹿児島県種子島など九州南部各地で、月降水量が6月の最高値を更新。
- 19日、沖縄で全国に先駆けて梅雨明けを発表。
- 26日、北海道は帯広などで猛暑日となる。釧路では最高気温の記録を更新。(気象庁予報部予報課)



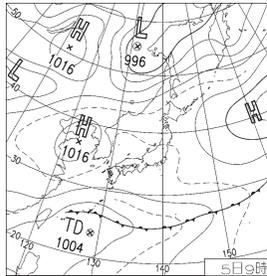
4日(金) 東海～東北で雷雨

高気圧に覆われ晴れたが、上空の寒気により東海～東北の広範囲でわか雨や雷雨。西日本は晴れて最高気温は7月並。沖縄は前線の影響で最高気温が上がり4月並。



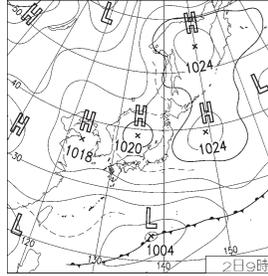
1日(火) 西日本で局地的大雨

5500mの上空に-15℃の寒気が入り西日本で大気の状態が不安定となり九州や中国地方で局地的に短時間強雨。宮崎県青島では3時間104mmの大雨。



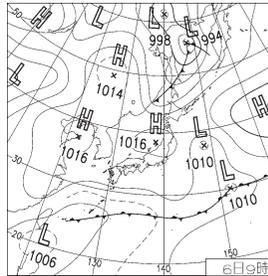
5日(土) 北関東～東北で雷雨

朝方まで東～北日本で雷雨。午後は東～北日本上空に滞留する寒気の影響で、北関東～東北地方の山沿いで雷雨。西日本は晴れ間が広がり、最高気温は7月中～下旬並。



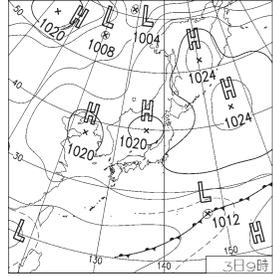
2日(水) 本州はさわやかな天気

本州を中心に移動性高気圧に覆われ晴れたが、午後は寒気の影響で西～東日本の山沿いではわか雨や雷雨。南西諸島は曇りや雨。九州南部では一時強い雨。北海道は曇りや雨。



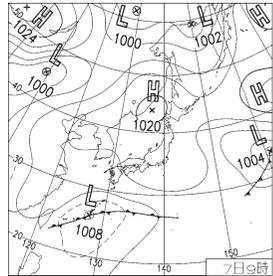
6日(日) 高気圧に覆われ晴れ

移動性高気圧に覆われ広く晴れ。九州の最高気温は真夏並の所も。高気圧が北に偏ったため九州南部では雲が広がる。南西諸島では、前線が停滞して曇りや雨の天気。



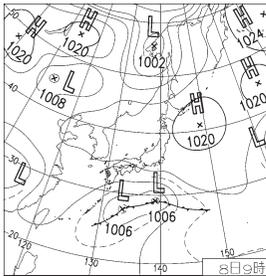
3日(木) 近畿で非常に激しい雨

引き続き九州～東北は広く晴れたが、昼頃から西～東日本山沿いで雨や雷雨。和歌山県高野山で61.5mm/1h。北海道は曇りや雨で、オホーツク海側は最高気温が4月中～下旬並。



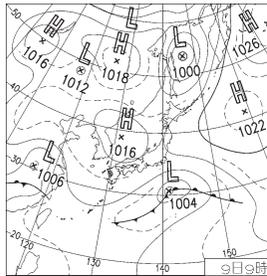
7日(月) 東北等で真夏日

東～北日本は概ね晴れたが午後一部で曇り。西日本は概ね曇り。一部で晴れ間もだが午後から雨の所も。最高気温は東～北日本で高く7月～8月上旬並。福島県若松で30.3℃。



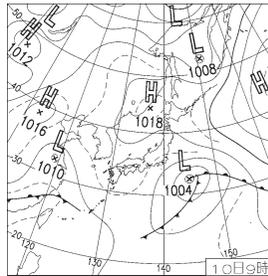
8日(火) 西～東日本で雨

前日から引き続き晴れたのは東北北部～北海道で、秋田県大館の最高気温は30.1℃。西～東日本は、南海上の低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨。石川県輪島市でホタルの初見。



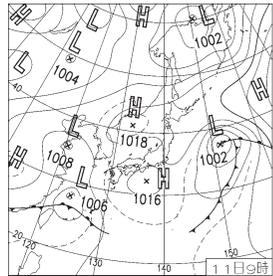
9日(水) 西日本から天気回復

西日本から高気圧に覆われ晴れ、北日本もおおむね晴れ。九州北部や北日本は最高気温が7月並。低気圧の影響で近畿～関東は雨で、最高気温は4月下旬～5月中旬並。



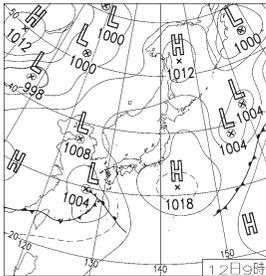
10日(木) 全国的に晴れ間広がる

日本海の高気圧に覆われ、西～北日本の広い範囲で晴れ間が広がる。内陸部では真夏日も。関東～東北の山沿いでわか雨。沖縄は梅雨前線の影響で雨。



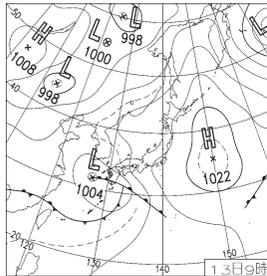
11日(金) 南西諸島で激しい雷雨

九州～北海道は高気圧に覆われて概ね晴れや曇り。前線や低気圧近隣の沖縄や奄美諸島は湿った空気が流入、沖縄県鹿間空港では86.0mm/1hなど、所々で非常に激しい雨。



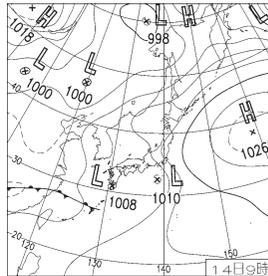
12日(土) 九州で梅雨入りを発表

前線の影響で南西諸島～九州では、曇りや雨。九州北部では午前中晴れ間も。その他は、概ね晴れて、最高気温も7月～8月上旬並。遅れていた九州北部・南部の梅雨入りを発表。



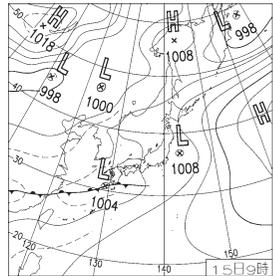
13日(日) 福島県で震度5弱

前線の影響を受け、宮崎県都農は170mm/日の大雨。連日晴れた北海道は、津別町豊永32.9℃など道内9か所で最高気温32℃台。中国・四国・近畿・東海・北陸の梅雨入り発表。



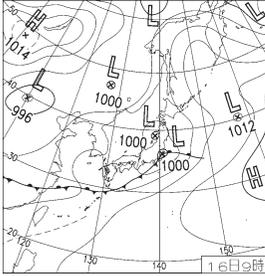
14日(月) 関東など梅雨入り発表

南西諸島にのびる前線や低気圧の接近により、沖縄～奄美と近畿～東北南部で雨。関東甲信と東北南部の梅雨入りを発表。関東甲信は平年より6日遅れ。東北南部は4日遅れ。

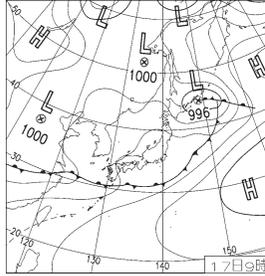


15日(火) 雨、西日本から東へ

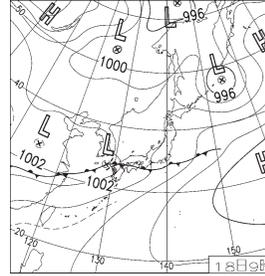
梅雨前線が本州南岸に停滞し、沖縄～西日本で雨。日中は東～北日本で晴れ間が広がる。北海道では真夏日となり、滝上では最高気温31.9℃。夜には東日本へ雨が広がる。



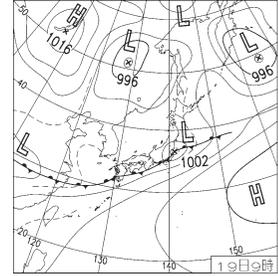
16日(水)東北北部も梅雨入り
低気圧と前線が北上。東～北日本は雨となった所が多く、東北北部も平年より4日遅く梅雨入りを発表。午後からは寒気の影響により関東では雷雨。



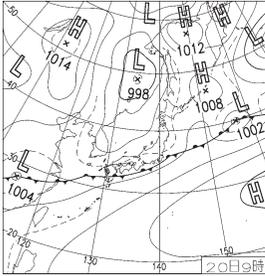
17日(木)本州は梅雨の晴れ間
南西諸島は曇りや雨、一部で晴れ間も。九州は午前中晴れたが、午後から各地で激しい雨。北海道は、曇りや雨だが太平洋側では晴れ間も。その他は概ね晴れて、各地で真夏日。



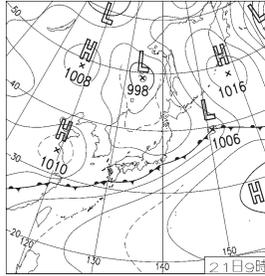
18日(金)東日本まで雨が広がる
梅雨前線が北上。午前中は西日本中心、午後からは東日本でも太平洋側中心に雨。低気圧に近い九州南部は大雨が続き、宮崎県えびの市えびので日降水量277mm。



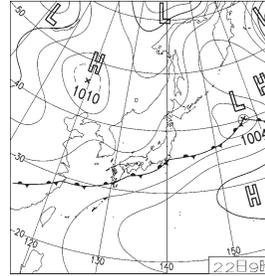
19日(土)沖縄で梅雨明けを発表
梅雨前線が九州南部～東日本南岸に停滞し、太平洋側で雨。九州南部で大雨となり鹿児島県南大隅町佐多で116mm/1hの猛烈な雨。梅雨明けを発表した沖縄は真夏日となる。



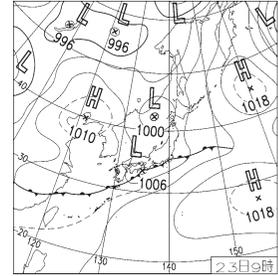
20日(日)西～北日本で雷雨
上空の寒気の影響で、西～北日本の山沿いで雷雨。西～東日本の太平洋側は梅雨前線の影響で雨。九州南部では大雨が続き、鹿児島県鹿屋市輝北で75mm/1h。



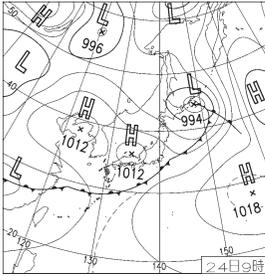
21日(月)九州南部で大雨続く
梅雨前線が本州の南岸に停滞し、西～東日本の太平洋側を中心に雨。九州南部では前日から大雨続き、鹿児島県霧島市溝辺で59.5mm/1h。北日本は晴れて暑く、7月並の気温。



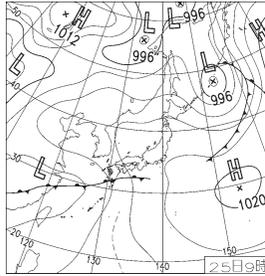
22日(火)明け方と夜に大雨
梅雨前線の影響で明け方には、紀伊半島から伊豆諸島で、夜は九州南部の各地で再び非常に激しい雨。東京都三宅島神着58mm/1h。鹿児島県鹿屋市輝北で77mm/1h。



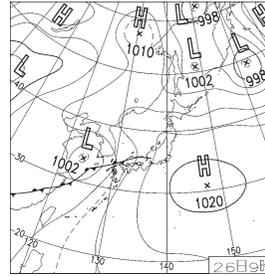
23日(水)東海で非常に激しい雨。
停滞していた前線が南下し、九州南部の激しい雨も小康状態に。日中は近畿～東日本中心の雨。北日本は寒気を伴った低気圧による雨や雷雨。岐阜県郡上市八幡で55mm/1h。



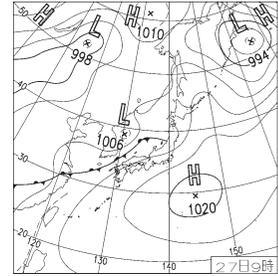
24日(木)九州南部 夜から再び雨
南下していた前線が北上し、日中晴れていた九州南部は夜になり雨が降り始める。北海道は寒気を伴った低気圧の影響で雨。北海道小平町達布では41.5mm/1hの激しい雨。



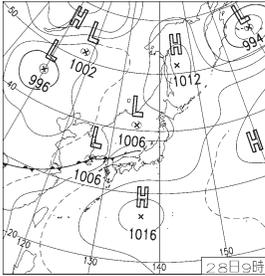
25日(金)西日本で雨続く
西日本では梅雨前線が南岸に停滞し雨。鹿児島県曾於市大隅で6月として最大の69.5mm/1hとなるなど九州南部で激しい雨が続き。高気圧が張り出した東日本の内陸では真夏日も。



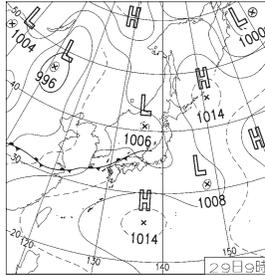
26日(土)北海道で猛暑日
北日本では、高気圧に覆われ良く晴れて気温上昇、北海道で猛暑日。北海道足寄町足寄では37.1℃。前線が停滞した西日本の太平洋岸で大雨。高知県本山65mm/1h。



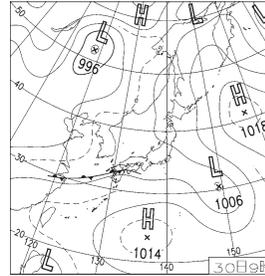
27日(日)梅雨前線北上
梅雨前線が日本海まで北上し、大雨の地域が西日本日本海側～北陸に。特に山口県各地で激しい雨。山口県篠生で55mm/1h。朝の最低気温は全国的に高く7月中旬～8月上旬並。



28日(月)蒸し暑い日本列島
西日本～東北は湿った空気が入りやすく、所々で雨や雷雨。一旦雨足の弱まった九州北部や中国地方で再び激しい雨。北海道は日中広く晴れて、日本海側でも真夏日多数。



29日(火)九州・関東で激しい雨
前線が九州北部から北陸にかけて停滞し、九州各地で激しい雨。宮崎県都農59mm/1h。夕方は関東で雷雨。埼玉県所沢64mm/1h。北海道内陸部は真夏日が広がる。

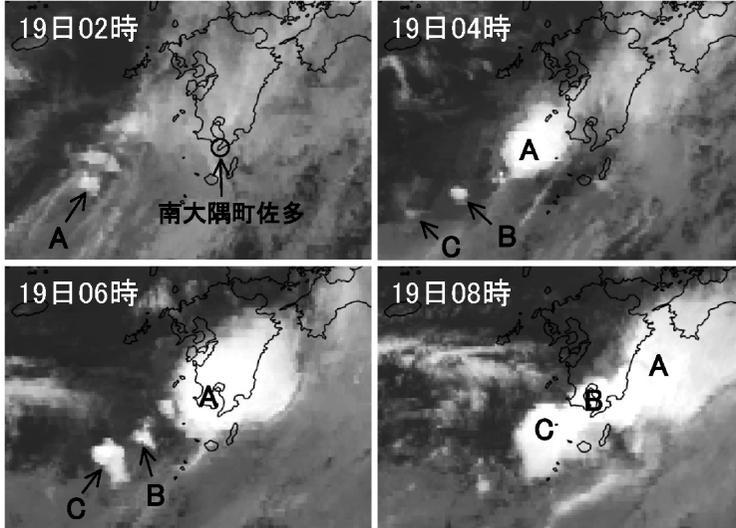


30日(水)梅雨前線 九州に停滞
関東は朝まで雷雨。近畿～東海は晴れ間が広がり各地で真夏日。大雨が続いた九州南部では、鹿児島県肝付町内之浦で1152.5mmなど6月の月降水量が各地で観測史上最多を記録。



今月のひまわり画像—2010年6月

九州南部で急発達したCb クラスタ



第1図 2010年6月19日02～08時（日本時間）の2時間毎の赤外画像（記号A, B, Cについては本文参照. 左上の図の○印の中心は鹿児島県南大隅町佐多を示す）.

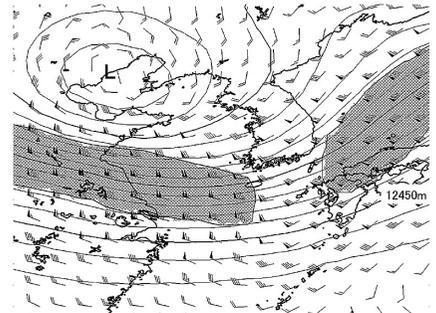
梅雨期間、九州南部では明け方を中心に1時間に100mmを超えるような降水に突如見舞われることがしばしばある。防災関係者などは降水域の動向に昼夜気が抜けない。

第1図は2010年6月19日02～08時（日本時間）の2時間毎の赤外画像である。同日、ボツ海付近には上層寒冷渦があり、寒気を伴った中・上層のトラフが九州南部付近を通過した（第2図参照）。トラフ後面の減速場における下降流などにより形成された乾燥空気が下層の暖湿な気塊の上空に達して対流活動が助長されたため、九州の南西海上では列状に並んだCb クラスタ（第1図中の記号A, B, Cなど）が次々に発生し、東北東に進みながら急発達した。

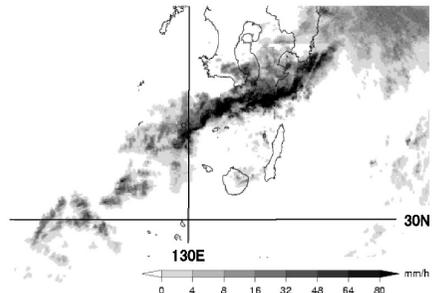
Cb クラスタAの水平スケールは比較的大きく、局地天気図の解析ではこのCb クラスタ内にはメソ低気圧が存在していた（図省略）。また、Cb クラスタA, B, Cの雲頂高度を T_{BB} （等価黒体温度）で調べると、08時に鹿児島湾付近に進んだB内で最も低く、 -77.5°C （高度約16kmに相当）となっていた。

同日06～09時、薩摩半島から大隅半島にかけて猛烈な雨となり、アメダスでは08時07分までの1時間に鹿児島県南大隅町佐多で観測史上1位となる116.0mmを観測した（第3図参照）。この時の短時間強雨は線状メソ対流系によってもたらされたが、06～09時の衛星画像（30分毎）とレーダー降水強度（5分毎）を比較すると、顕著な線状エコーはCb クラスタA, B, Cが併合することに伴い形成されていったことがわかる。

（福岡管区気象台技術部予報課 木下 仁）



第2図 気象庁全球モデル（18日21時初期値）による19日03時の200hPa面の等高線（30m毎）及び風（単位：kt（1kt=0.51m/s）、80kt以上の領域をハッチで表示）.



第3図 19日08時の鹿児島県付近におけるレーダー降水強度.